

論文目録

*整理番号		(ふりがな) 氏名	し が た ろう 滋 賀 太 郎
学位論文			
<p>Macular マウスのコラーゲンに関する研究 日本口腔外科学会誌 第33巻第3号 120頁～150頁 平成〇〇年〇月発行 著者名：滋賀太郎、小野一郎、茂木二郎、西村三郎</p>			
参考論文			
<p>1 小児にみられた眼窩底骨折の3実験例 日本口腔外科学会誌 第29巻第6号 104頁～120頁 平成〇〇年〇月発行 著者名：水野一郎、中村次郎、中島 卓、滋賀太郎</p>			
<p>2 TL-102M による口内炎の治療成績 —Placebo との比較— 日本歯科評論 第488号 257頁～260頁 平成〇〇年〇月発行予定 著者名：松田晃一、中村次郎、中島 卓、滋賀太郎</p>			

(備考) ※印の欄には記入しないこと。

【記入例 (論文博士)】

履 歴 書

※整理番号		本 籍 地	滋 賀 都・道・府・ <u>県</u>
(ふりがな) 氏 名	し が た ろう 滋 賀 太 郎	<u>昭和</u> 平成	<u>男</u> ・女 〇〇年〇〇月〇〇日生
現 住 所	滋賀県大津市〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号 〇〇マンション 〇〇号室		
学 歴	平成〇〇年 4月 1日 滋賀医科大学医学部入学 平成〇〇年 3月〇〇日 同上卒業 平成〇〇年 4月 1日 滋賀医科大学大学院医学系研究科入学 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上退学		
研 究 歴	平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋賀医科大学医学部附属病院医員 (研修医) として〇〇科において研究に従事 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上修了 平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋賀医科大学医学部助教として〇〇講座において 研究に従事 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上退職 平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋賀医科大学医学部研究生 (〇〇講座) 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上満了		
職 歴	平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋賀医科大学医学部附属病院医員 (研修医) として〇〇科に勤務 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上退職 平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋賀医科大学医学部助教として〇〇講座に勤務 平成〇〇年〇〇月〇〇日 同上退職 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇病院医師として〇〇科に勤務 現在に至る		
免許・資格等	平成〇〇年〇〇月〇〇日 医師免許証下付 (第1234号)		
賞 罰	なし		
以上のとおり相違ありません。 平成〇〇年〇〇月〇〇日 滋 賀 太 郎 (※この氏名のみ自署すること)			

(備考) ※印の欄には記入しないこと。

自己担当部分についての報告書

【記入例】

滋賀医科大学長 殿

学位申請者氏名： 滋賀太郎

【着想】

申請者は滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授から、「食道癌の遺伝子異常」という研究課題を受けた。申請者は数多く報告されている癌遺伝子のなかで cyclin D1 に着目し、食道癌における cyclin D1 遺伝子の増幅、cyclin D1 mRNA 及び蛋白の発現、局在、cyclin D1 蛋白過剰発現の臨床的意義を検討した。

【方法論】

滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授及び〇〇准教授により切除され、臨床病理診断に供された食道癌組織は、滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授に診断していただき、臨床病理学的検討のデータとした。遺伝子の増幅（サザンブロット法）、mRNA の発現（in situ hybridization 法）は〇〇教授の、免疫組織化学染色は滋賀医科大学〇〇講座〇〇助教の指導を受けた。

【研究の施行】

すべての研究手技及びデータの整理を、申請者が行った。

【論文の作成】

滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授から表現方法及び考察の助言を受けながら、申請者が論文の執筆及び図表の作成を行った。論文は、滋賀医科大学〇〇教授及び〇〇准教授の校閲を受けた。

【共著者が〇名に至った理由】

実験的研究が広範囲かつ専門的であること、また材料に手術切除材料を使用していることから、滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授、〇〇准教授、〇〇助教、滋賀医科大学〇〇講座〇〇教授の多大なる指導、助言をいただいたため、共著者が〇名に至った次第である。

（※共著者が申請者本人を含めて4名を超えない場合は、【共著者が〇名に至った理由】の記載は不要）

(学位申請に際する学位論文提出に係る承諾書(英文)の例)
[A sample of the letter of consent in English
for submittal of doctoral dissertation]

To the president of Shiga University of Medical Science

I give a consent for *[NAME OF CANDIDATE AUTHOR]* to submit the following paper as a doctoral dissertation to your post-graduate course.

And I shall not use that paper as my doctoral dissertation.

Title :

Author : Name of first author (name of candidate author), names of all coauthors

Journal :

Volume, page, year :

Office :

Tel. / E-mail :

Signature : _____ Date : _____